

職員室から・・・

24年5月8日

新潟青陵幼稚園 加藤由美子

幼稚園で使っている教材には、それぞれ意味があって使っていますが、今、子どもたちが使っているクレヨンにはどんな意味があるのでしょうか。

年少と年中の子どもたちが使っているクレヨンは、ブロッククレヨン・・・四角い形のクレヨンです。このクレヨンは蜜蝋クレヨンと言われているもので、蜂の巣の蜜蝋から作られていますのでなめても安全なものです。

このクレヨンは、こってりとした色の一般的なクレヨンに比べると、色が薄い感じがしますが、色がきれいで透明感があるのです。別な色を塗り重ねても透明感が保たれていますので、色が重なったところには、新たな色が生まれるという特徴があって、色の美しさが体験されます。いわゆる赤青黄の3原色が基本となっていていろいろな色の重なりが新たな色との出会いとして体験されます。クレヨンで描きながら「わ～緑だ～」と色との出会いを楽しんでいる子どもたちです。幼児期には、ブロックの形のクレヨンで色と遊ぶことを中心にしています。それは、幼児期の子どもたちは夢の中にいるかのように、無心で色と遊ぶということを体験しているからです。これは幼児期ならではの事なのです。色と遊び、色を楽しむということに適しているブロッククレヨンということになりますね。幼児期には、描くというより、色と出会って色と遊ぶことを重視しています。

大人は、どうしても上手に描くということを考えてしまって、子どものように無心に色と遊ぶということは難しいのです。意識が目覚めてしまっていますからね。

鉛筆やボールペンなどは、細い線が描かれるために、細かく描くということではできるのですが、意識がでてきてしまうので（夢の中から目覚めさせられている状態）幼児期ならではの無心で描くということとは遠くなってしまいます。ですから、幼児期にはサインペン、鉛筆、などはできるだけ避けたいと思っています。こうした線を描くものを使って描くと、絵は、“ちまちましたもの”になってしまうと「吉良創さん」が著書の中で書かれていますし、またブロッククレヨンについて次のようにも書かれています。

「たとえばコップの絵を描こうとすると、ほとんどの人が線でその輪郭を描くでしょう。しかしコップのどこに線があるでしょう。コップには実は面しかありません。面と面のであったところを私たちは線と感じているのですが、実際

は周りの世界には、面としての色の違いや濃淡があるのです。本当の線や点は抽象的な概念であり、実際の現実の世界には存在していません。」・・・芸術的な説明をするところなるのですね。

面で描くということが、ブロッククレヨンでは可能になるわけで・・・そういえば「いわさきちひろさん」の絵は、面で描かれている絵——輪郭線がない絵がありますね。

年長は、スティッククレヨンを使っています。本当は、ブロッククレヨンを使ってもらいたいのですが、現代社会はいろんな刺激が大きくて、子どもたちが早くに“自我意識”というところについてしまって、夢の中にいるかのように無心で描くということが難しくなっています。

もうすでに、線で物の形を描くという経験をしていますし、子どもたちもまたそれを求めてしまっている現実がありますので、年長にはスティック形のクレヨンを使ってもらっています。でも、芸術的な面からは、面で描くことをもっと長い期間楽しんでもらいたいのので、保育室にはもちろんブロッククレヨンもおいてあるのですよ。使ってくれるといいですね。

